

IMF世界経済見通し—米中貿易摩擦の「ひび割れ」を修復へ

2019年10月16日作成

世界経済は、2019年に減速した後、新興国の持ち直しにより2020年は回復する見通し。

- IMF（国際通貨基金）は、世界経済は米中貿易摩擦の影響により2019年にかけて減速するものの、各国の金融緩和策の強化などを背景に2020年に回復する見通しを示しました。
- 貿易摩擦問題の影響が懸念される中国は緩やかな減速傾向が続く見通しですが、2020年には多くの新興国において経済成長が持ち直すと予想されています。

【図表1】主要国の経済成長率(IMF予測値、前年比%)

	2017年	2018年	2019年(予測値) [3カ月前予測値からの変化幅]	2020年(予測値) [3カ月前予測値からの変化幅]
世界	3.8	3.6	3.0 [▲0.2下方修正]	3.4 [▲0.1下方修正]
日本	1.9	0.8	0.9 [修正なし]	0.5 [+0.1上方修正]
米国	2.4	2.9	2.4 [▲0.2下方修正]	2.1 [+0.2上方修正]
ユーロ圏	2.5	1.9	1.2 [▲0.1下方修正]	1.4 [▲0.2下方修正]
スイス	1.9	2.8	0.8 [▲0.3下方修正] ^(注1)	1.3 [▲0.2下方修正] ^(注1)
豪州	2.4	2.7	1.7 [▲0.4下方修正] ^(注1)	2.3 [▲0.5下方修正] ^(注1)
カナダ	3.0	1.9	1.5 [修正なし]	1.8 [▲0.1下方修正]
新興国 ^(注2)	4.8	4.5	3.9 [▲0.2下方修正]	4.6 [▲0.1下方修正]
中国	6.8	6.6	6.1 [▲0.1下方修正]	5.8 [▲0.2下方修正]
インド	7.2	6.8	6.1 [▲0.9下方修正]	7.0 [▲0.2下方修正]
インドネシア	5.1	5.2	5.0 [▲0.2下方修正] ^(注1)	5.1 [▲0.1下方修正] ^(注1)
南アフリカ	1.4	0.8	0.7 [修正なし]	1.1 [修正なし]

注1：6カ月前予測値からの変化

注2：新興国はIMFが公表した日本語版では「新興市場国と発展途上国」

出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

世界経済は、2019年に減速した後、2020年に回復へ

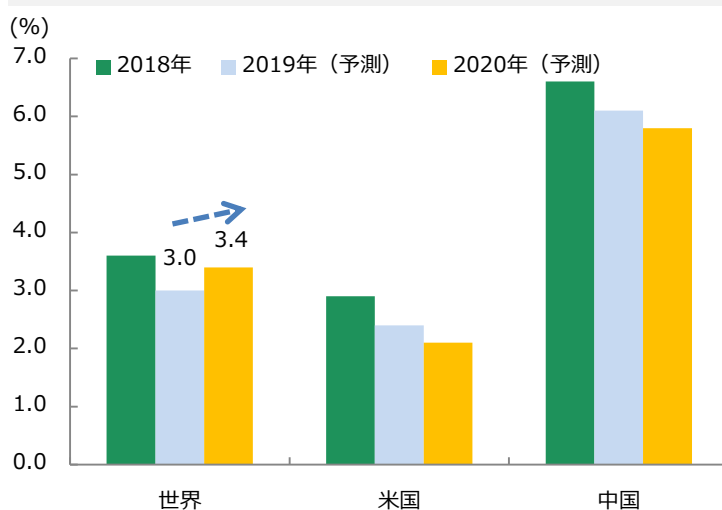
世界的な製造業の減速により、2019年の世界経済成長率は3.0%に減速するものの、2020年には3.4%まで回復する見通しが示されました。貿易摩擦問題によるマイナスの影響は引き続き懸念され、米中貿易摩擦は、2020年までに世界のGDPを約0.8%引き下げるとの推計が示されました。一方で、世界各国でサービス業が堅調に推移しており、雇用全体を支えている点は前向きに評価されています。

2020年は、低迷していた新興国が持ち直し

貿易摩擦問題の影響もあり、米国は2020年にかけて景気が減速する見通しですが、潜在成長率を小幅に上回る水準の成長が見込まれています。また、中国は減速傾向が続くと予想されるものの、多くの新興国において2020年に経済成長が持ち直し、世界全体では2020年に景気が回復するシナリオが示されました。

【図表2】経済成長率(IMF予測値、前年比%)

米中は減速の見込みも、世界経済は2020年に回復へ



出所：IMFデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。